

平成25年度 新潟県小学校教育研究会 学習指導改善調査研究事業  
協力校としての取組

阿賀野市立赤坂小学校

1 昨年度の結果と今年度の目指す子どもの姿

- ・昨年度の学習指導改善調査は、大体の学年が県平均を上回る結果であった。しかし、理由や条件に合った内容を分かりやすく書く力が弱いことが分かった。
- ・今年度目指す子どもの姿は、以下の通りである。

○基礎的・基本的な学習内容を身につけ、友達と共に学ぶ中で、自分の考えを高めていく子ども。

【数値目標】

- ①授業研究を行った単元において、問題の説明をかき表す力の向上が見られる児童の割合が80%以上になる。
- ②学校生活アンケートで「勉強が分かる」と答える子どもが90%以上になる。
- ③毎日「学年×10分以上」の家庭学習をしている子どもが80%以上になる。

2 取組の概要

①校内研究との関わりにおいて

- ・今年度の研究主題と副題は次の通りである。

集団の中で共に学び、高め合う子どもの育成  
～筋道を立ててかき表す活動の充実をとおして～

↓ そのために

- ・学習の初めの段階におけるかき表す活動に重点を置いた授業改善  
→授業改善の視点として、「自分の考えをもたせるための手立て」と「考えをかき表す力の育成のための手立て」を設定する。
- ・考えをかき表し、共に学ぶためのスキルの指導  
→赤坂スキル（より良い学習活動を行うための言語活動の「方法」や「技能」のスキル）を中心に。
- ・課題を明確にし、つながりをもたせた授業研究協議会
- ・家庭学習の習慣化の推進

②学習指導改善調査に関する直接的な取組

(ア) 学習指導改善調査についての確認

- ・5月末に、全職員で、今年度の学習指導改善調査の実施時期や内容についての確認を行った。

(イ) 事前指導期間の設定と実施

- ・テスト実施日前の1週間を事前指導期間として、問題形式に慣れるための集中的な指導を行った。

(ウ) 採点・入力・分析

- ・夏季休業中に職員研修日を設定し、全職員で、採点・入力・分析作業を行った。



(エ) 重点事項と指導単元の設定

- ・冬期休業中に職員研修日を設定し、全職員で、重点事項と指導単元の設定作業を行った。
- ・作業工程は次の通りである。

①結果と分析の確認

②重点事項と指導単元の設定

- ・ 県平均と正答率を比較し、ポイント差を＋で出す。
- ・ 県比で－10ポイント以上、正答率70%未満の問題を重点事項とする。また、重点事項の多い単元を指導単元とする。
- ・ 指導単元は、各学年の年間指導計画（コピー）に、赤で「**県**」と書き込む。

さらに、「**県**指導のてびき」「**県**指導案」と赤で書き込む。

- ・ 付箋に重点事項を書き、教科書の該当単元の最初のページに貼る。
- ・ 4～6年担任は、「指導のてびき」「指導案」を、自学年の指導計画ファイルに綴る。

③②の共通理解

- ・ 書き込みをした指導計画を各学年に配布する。（指導計画の見直しに生かす。）
- ・ ポイント差を書き込んだ用紙を印刷し、全員に配る。

3 平成25年度学習指導改善調査の結果と分析

①採点結果

	4年		5年		6年	
	赤坂小	県平均	赤坂小	県平均	赤坂小	県平均
国語	69.4	64.7	72.4	74.3	63.8	72.8
算数	67.8	69.4	80.1	64.6	57.5	65.1
理科	47.5	44.4	58.8	62.0	70.7	65.1

②分析（○：成果、●：課題）

4年 国語

- 組み立て表に使われたメモの選択がよくできていた。
- 自分が作る組み立て表に使うメモの選択もよくできていた。
- 指定された文字数で紹介文を書くことがよくできていた。
- 紹介文に使わない取材メモの、使わなくてよい理由が正しく捉えられなかった。大まかな意味は合っているのだが、キーワードとなる言葉が入っていなかったり、説明（言葉）が足りなかったりする誤答が多かった。
- グループでの話し合いの文中に入る2つの言葉の選択は、正答と逆に選択している間違いが多かった。挿入箇所の続きの文と、取材メモの内容をきちんと照合していないと考えられる。

5年 国語

- 文字数、段落、立場を明らかにして記述することができた。
- 文章やアンケート結果（特に、表）の読み取りが十分にできなかった。文章の読解問題と資料の読み取りを、繰り返し指導していく。

6年 国語

- 文章の読み取り問題は比較的よく解答していた。
- 作文問題では、15人中14人が決められた文字数まで書くことができた。
- 作文問題では、資料を選ぶことはできているが、資料の説明を言葉だけで記述し、数値を具体的に書くことができない児童が数名いた。また、自分の「考え」ではなく、「体験」を書くことも難しかったようである。

## 4年 算数

- 時間と時刻で、適切な単位を選択する問題はよくできていた。
- 8枚の数字カードで一番小さい数を作る問題で、説明の中に「一番上の位に0を入れることができない。」という記述をすることができない児童が大変多かった。
- また、同じ問題で、正しい解答を導き出せた児童も大変少なかった。誤答のパターンは次の通りである。
  - ・一番大きな数を答えた。
  - ・一番上の位に0を入れた。
  - ・数字を一つ書き落とした。(入れ忘れた。)

## 5年 算数

- 面積の求め方を言葉で書いてあるものを見て、それを表す図を選ぶことはできるが、図を見て説明するのは難しい。文章の中で用語を正確に使えない。

## 6年 算数

- ①四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えた問題では、15人中13人が①②と穴埋め問題を全問正解していた。角の大きさについて定着していると考えられる。
- 全員全ての欄を埋めていて素晴らしい。
- 図形の記述問題でも、考え方はよく書いている。しかし、「直線で結ぶ」という言葉が書けずに、「直線を引く」「線を引く」という表現で書いてしまう児童が数名いた。
- 「4教科のテストの平均点が85点」だった場合の合計点「 $85 \times 4$ 」を立式できたのが1人だけであった。個人の点を求める際に、表にある数に注目してしまい、問題の意図を理解しきれていなかったと考えられる。

## 4年 理科

- 「ものの重さと体積」の3択で選ぶ「形を変えたときの重さの理解」の2問は、多くの子どもがよくできていた。
- 「かげと太陽」の太陽と影の方位、「ものの重さと体積」の重さの比較のような順序立てて考えて正答を導き出す問題になると、記号問題とはいえ、正答率がぐっと下がる。普段の授業から筋道立てて考える習慣を身に着けさせる必要がある。
- 「かげと太陽」、「ものの重さと体積」ともに記述式の問題の正答率が全体的によくない。正答の条件を満たした記述になっていないことが原因である。題意に即した解答の仕方を普段から練習しておく必要がある。

## 5年 理科

- 校庭で見られる生き物の数や種類、温度のグラフから、読み取る問題であった。どの資料を使ったかを正しく選ぶことができていたが、記号の順番を逆に書いたため、誤答となった児童が多くいたのが残念であった。逆でも正解にしてもよい。
- 水を熱したときの泡の正体について、A児、B児の予想の続きを書く問題であった。A児、B児ともにできた児童は、4/17人であった。条件に合わせて、他の児童の予想を書くことが難しかったやうである。また、実験結果と考察・結論をまとめたノートの穴埋め問題では、3か所全てできた児童は7/17人であった。2か所正解の児童が多く、しっかりと結論を覚えていないと、文章に適した言葉を入れることができなかった。
- 水を熱したときの水の様子や温度の変化について、水100mlの結果から、水200mlの結果を考える問題であった。正しいグラフを選択した児童は、10/17であった。そのうち、9人が理由を書くことができた。
- 二つの資料を選んで、分かることをまとめる問題では、7/17人でできていた。

## 6年 理科

○種子の発芽の実験で、条件制御ができています。

- 種子の発芽で、実験内容とその結果の資料があるのに読み取れず間違った説明を書いていた。
- ゴミ処理場で、棒磁石ではなく電磁石を使っている理由を、電磁石の性質をふまえて書くことができない。

### 4 授業改善の取組の実際

今年度は、算数を中心に校内研究に取り組んできた。以下P5～P10に、第5学年の指導案と考察を示す。

### 5 成果と課題

#### ①成果

- ・授業研究を行った単元において、問題の説明をかき表す力の向上が見られる児童の割合が80%以上になった学年は、6/6学年であった。
- ・3学期の学校生活アンケートで「勉強が分かる」と答えた子どもは90.5%であった。
- ・毎日「学年×10分以上」の家庭学習をしている子どもが80%以上になった学年は、6/6学年であった。
- ・授業改善の場面を「(学習の始めの) かき表す活動」に焦点化したことにより、「高め合う」場面で理解・認識を深めることができた。
- ・赤坂スキルの見直し・修正や、新たにスキルチェックカードを作成して活用したりスキルチェック週間を設けたりすることで、教師も子どもも授業の中で学習スキルを意識することができた。

#### ②課題

- ・文章や資料を正しく読み取れないために、正しい立式や解答につながらない児童がいる。
- ・「かき表す」ための根幹となる、語彙力及び言葉の理解、文章を読み取る力が弱い。
- ・普通の授業に見られる児童の学力実態はまだまだ高いとは言えない。学年によっては基礎的・基本的な力が低いとも言える。

### 6 次年度の取組の方向

- ・文章や資料を正しく読み取ることで、適切な判断・思考の構成・表現につなげていく内容を中心に研修を進めていく。
- ・読み取る力を高めることを目指して、次年度の研究教科を国語として取り組む。
- ・スキルチェックカードの工夫や、より有効な活用の仕方について考えていく。
- ・メディアコントロールと関連させた家庭学習の取組を進め、家庭学習の質の向上を目指す。

## 第5学年算数科学習指導案

平成25年11月13日(水) 6校時

指導者 教諭 小川 晴美

### 1 単元名 面積

### 2 単元の目標

- 【関心・意欲・態度】既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を進んで見出そうとしている。
- 【数学的な考え方】既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくったりすることができる。
- 【技能】三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を用いて、面積を求めることができる。
- 【知識・理解】三角形や平行四辺形などの面積の求め方を理解する。

### 3 単元の構想

本単元で設定するかき表す活動は、三角形や平行四辺形などの図形の面積の求め方を、既習の面積の求め方を活用して考え、図や式、言葉でかき表すことである。また、単元末に陣取りゲームをすることを単元の導入で予告し、各図形の面積を求める必要感をもたせたい。

- ・**もたせる**手立てについては、既習事項を想起させたり確認したりすることで、面積の求め方が分かっている図形に分割・変形させれば求積できる、という見通しをもたせる。
- ・**かかせる**手立てについては、課題の図形を面積の求め方が分かっている図形にどのように分割・変形させて考えたのかを、図や言葉、式で分かりやすくまとめられるようにする。

### 4 指導計画 (全13時間)

- 第1次 三角形の面積・・・4時間
- 第2次 平行四辺形の面積・・・2時間 (本時1 / 2時間)
- 第3次 いろいろな三角形・四角形の面積・・・4時間
- 第4次 面積の問題・・・3時間

### 5 本時について

#### (1) ねらい

面積の求め方が分かっている図形に分割・変形することを通して、平行四辺形の面積の求め方を考えることができ、いろいろな求積方法があることが分かる。

#### (2) 本時の構想

##### <もたせる>

##### 既習内容の掲示

既習内容(正方形、長方形、三角形の面積の公式とその求め方、既習の図形の性質)を掲示しておき、見通しをもたせる手立てにする。

##### 図形カードを使った操作活動

平行四辺形のカードを切ったり、動かしたりするなどの操作活動を通して、面積の求め方を考えるようにする。

##### ヒントカードの工夫

ヒントカードを用意する。表は方法への見通し、裏には具体的な方法を示すようにし、できるだけ考えるようにさせたい。

##### <かかせる>

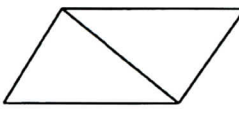


##### 求積方法の視覚化

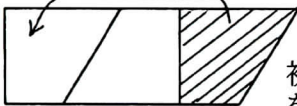
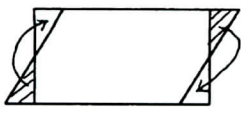
分割・変形した図形カードや図をもとに考えた求積方法の跡が残るように、矢印をかいいたり、数・言葉・式・答えをかき込んだりできるようなワークシートを活用する。

##### 考えを伝え合う場の設定

グループで、一人ずつ順に自分の考えを説明し、友達から質問やよい点を伝えられることにより、再度自分の考えを見直し、付け足したり修正したりさせたい。

(3) 展開

階	学 習 活 動	○教師の働きかけ ☆評価
つ か む       3 分	<p>T1 陣取りゲームをしています。この二つの陣地を取ったら、それぞれどれだけ陣地が増えますか。</p> <p>C 長方形の面積なら分かる。 C 長方形だから、<math>5 \times 8 = 40</math>で<math>40 \text{ cm}^2</math>増える。 C 平行四辺形の面積は、ますを数える。 C 分からない。 C 平行四辺形の面積の求め方が分かればいい。</p> <p>T2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>今日は、平行四辺形の面積の求め方を考えましょう。</p> </div>	<p>○一目では面積の違いが判断しにくいような、拡大した長方形と平行四辺形を提示する。(無地のもの)</p> <p>○方眼紙に描いた長方形と平行四辺形を順に提示する。</p> <p>○長方形の面積が<math>5 \times 8 = 40</math>の式で求められ<math>40 \text{ cm}^2</math>であることを確認する。</p> <p>○平行四辺形の面積の求め方を考えるという本時の課題に気付く発言があったら、課題を提示し、次の活動へ入る。</p>
考 え を も ち ・ か き 表 す	<p>T3 どうしたら、平行四辺形の面積を求められそうですか。</p> <p>C 二つの三角形に分けると求められそう。 C 長方形や直角三角形、三角形の公式が使いそう。 C 長方形に形を変えると求められそう。</p> <p>T4 では、面積を求められる図形に分けたり、形を変えたりして、平行四辺形の面積の求め方を考えましょう。</p> <p>C1 三角形に分けて求める。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div> <p>初めに、対角線をひく。 次に、三角形の面積を求める。 <math>8 \times 5 \div 2 = 20</math> 最後に、三角形は二つあるから、 <math>20 \times 2 = 40</math> だから、面積は<math>40 \text{ cm}^2</math></p> </div> </div> <p>式 <math>8 \times 5 \div 2 = 20</math> <math>20 \times 2 = 40</math>                      <math>40 \text{ cm}^2</math></p> <p>C2 直角三角形と長方形に分けて求める。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div> <p>初めに、縦に図のように線を引き、二つの直角三角形と長方形に分ける。 次に、三角形の面積を求める</p> </div> </div> <p>式 <math>2 \times 5 \div 2 = 5</math>                      <math>2 \times 5 \div 2 = 5</math> <math>5 \times 2 = 10</math>                      三角形は二つあるから、 <math>5 \times 6 = 30</math>                      <math>5 \times 2 = 10</math> <math>10 + 30 = 40</math>                      最後に、長方形の面積を求 <math>40 \text{ cm}^2</math>                      る。<math>5 \times 6 = 30</math>                       だから<math>10 + 30 = 40</math>で                       面積は<math>40 \text{ cm}^2</math></p> <p>C3 長方形に形を変えて求める。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div> <p>初めに、縦に図のように線を引き、台形と直角三角形に分ける。</p> </div> </div>	<p>○既習の公式や方法で使いそうなものを引き出し、見通しをもたせる。</p> <p>○既習内容を掲示しておく。</p> <p>○長方形や直角三角形、三角形に分割したり、変形したりすると平行四辺形の面積が求められそうだという見通しを押しさえる。</p> <p>○方眼紙に平行四辺形を印刷し図、言葉、式、答えがかき込めるワークシートと平行四辺形のカードを配布する。</p> <p>○配布した平行四辺形のカードを、切ったり動かしたりしながら面積を求める方法を考えさせる。</p> <p>○できるだけ簡単に面積を求められる方法を考えるように促す。</p> <p>○戸惑っている子には、ヒントカードや声かけを通して支援をする。</p> <p>○隣の人と相談してもよいことにする。</p> <p>○C1、C2、C3の考えが多いことが予想される。一つの方法を考えたと子には、他の方法も考えさせる。</p>

20分	<p>式 <math>5 \times 8 = 40</math> <math>40 \text{ cm}^2</math></p> <p>次に、直角三角形を反対側へずらす。 最後に、できた長方形の面積を求める。 <math>5 \times 8 = 40</math> <math>40 \text{ cm}^2</math></p> <p>C4 長方形に形を変えて求める。</p>  <p>初めに、縦に図のように線を引き、二つの台形に分ける。 次に、台形を反対へずらす。 最後に、できた長方形の面積を求める。 <math>5 \times 8 = 40</math> <math>40 \text{ cm}^2</math></p> <p>C5 長方形に形を変えて求める。</p>  <p>初めに、図のように縦の線を引く。 次に、三角形を回して長方形を作る。 最後に、長方形の面積を求める。 <math>5 \times 8 = 40</math> <math>40 \text{ cm}^2</math></p>	<p>○ワークシートと平行四辺形のカードを多数用意しておき、自由に取れるようにしておく</p> <p>○全員が、少なくとも一つ、自分の考えについて、図か説明がかけたら次の活動へ移る。</p>
伝え合う 10分	<p>T5 グループで、一人ずつ自分の考えを説明し、聞き手は、質問やよい点を伝えましょう。</p> <p>C (説明する。質問を受けて見直す・付け足す)</p>	<p>○見直しや付け足しは、ワークシートに青ペンでかくようにする。</p> <p>☆平行四辺形の面積の求め方を言葉や図、式を使ってかき表すことができる。</p>
話し合う 10分	<p>T6 平行四辺形の面積をどのようにして求めたのか自分と友達の考えを比べてみましょう。</p> <p>C ぼくは、三角形に分けて考えたけど、〇〇さんは、長方形に形を変えて考えている。</p> <p>C 分けたのは、△△さんと同じだけど、ぼくは、三角形と長方形に分けて考えた。</p> <p>C ぼくも〇〇さんも長方形にして考えた。</p>	<p>○面積の求め方をかいた図を提示し、自分と同じ考えに挙手させる。</p> <p>○考えを比較させながら、求め方に見出しを付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形に分けて考えた</li> <li>・直角三角形と長方形に分けて考えた</li> <li>・長方形に変形して考えた。</li> </ul> <p>○どの求め方も平行四辺形の面積が <math>40 \text{ cm}^2</math> になったことを確認する。式は次時に扱う。</p>
振り返る 2分	<p>T7 分かったことや話し合っよよかったことを書きましょう。</p> <p>C 平行四辺形の面積は、三角形や長方形などに分けたり、変形したりすれば求められることが分かった。</p> <p>C 平行四辺形の面積の求めるには、いろいろな方法があることが分かった。</p> <p>C 他の平行四辺形の面積も求めてみたい。</p> <p>C 平行四辺形の面積を求める公式を考えたい。</p>	<p>○振り返りを書く。</p> <p>○本時のねらいに沿ったものや次時の課題につながるような記述の子を指名し、発表させる。</p> <p>☆平行四辺形の求積方法は、いろいろあることが分かる。</p>

## 実践の考察 (成果◎ 課題▲)

### 1. 既習内容を振り返りながら見直しをもつ場や、図形カードを使った操作活動、ヒントカードは、自分の考えをもたせるために有効であったか。

#### ◎ 既習の内容の掲示は見直しをもたせるために有効

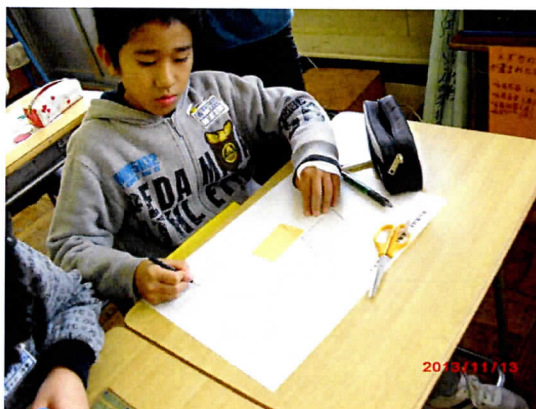
既習の正方形、長方形、直角三角形、三角形の面積の求め方や公式を掲示しておいたことにより、既習内容を容易に想起させることができた。また、子どもたちは、本時までには図形カードを操作して直角三角形や三角形の面積を求める経験をしていた。その経験を生かし、平行四辺形の面積も、面積の求め方が分かっている図形に帰着させると求められそうだという見直しをもつことができた。

#### ◎ 図形カードを使った操作活動は自分の考えをもたせるために有効

自分の考えをもつ時間は16分だった。その中で、全員が1通り以上自分の考えをもつことができた。1通り考えた子は4人、2通りは8人、3通りは4人、4通りは1人という結果だった。

図形カードを使った操作活動を通して、子どもたちが自分の考えをもつことができた理由として3つ挙げられる。

一つ目は、操作活動に入る前に一人一人が見直しをしっかりとっていたこと、二つ目は、図形カードの操作に子どもたちが慣れてきたこと、三つ目は、図形を分割したり変形したりする操作を行うことにより、自分の考えがより視覚化され明らかにできたことである。従って、見直しをもたせた上で、図形カードを使った操作活動を行うことは、自分の考えをもつために有効だということが分かった。



#### ▲ 本時はヒントカードの必要はなかった

自分の考えをもてるようにヒントカードを用意したが、支援を必要だと考えた子は、自力で考えたいという思いをもちヒントカードを活用しなかった。活用しなくても自力で考えることができた。本時はヒントカードの必要はなかった。単元の初期段階では、ヒントカードが役に立ったが、学習が進むにつれて見直しをもつことができるようになったと考える。

### 2. 求積の跡を残せるようなワークシートの活用やグループで伝え合う場の設定は、自分の考えをかき表させるために有効であったか。

#### ◎ ワークシートは自分の考えを表させるための手立てになった

課題となる平行四辺形の図が印刷され、分割・変形した図形カードを貼り付けるスペースがあり、矢印や言葉、説明、式、答えをかき込むワークシートは、操作過程が視覚的に捉えやすく、自分の思考過程をかき表す手立てになっていた。

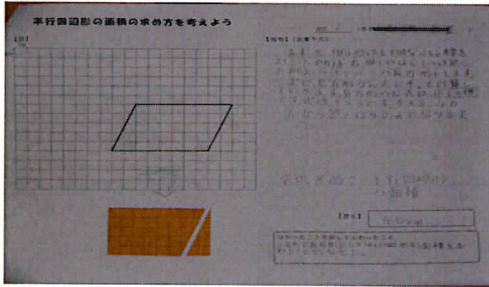
図を見ると平行四辺形の面積をどのようにして求めたのかが分かり、「初めに、次に、最後に」のような順序を表す言葉を使って筋道立てて説明をかくことは、自分の考えを明らかにすることができたと考える。

- 対角線で二つの三角形に分ける方法(指導案C1)・・・8人
- 二つの直角三角形と長方形に分ける方法(指導案C2)・・・4人
- 台形と直角三角形に分けて長方形に変形する方法(指導案C3)・・・17人
- 二つの台形に分けて長方形に変形する方法(指導案C4)・・・3人
- 直角三角形をまわして長方形に変形する方法(指導案C5)・・・1人
- 2倍積で考える方法・・・2人



◎ 伝え合いの場は、自分の考えを見直したりかき表したりする活動を促した

グループで伝え合う場では、互いに自分の考えを発表するだけでなく、質問や感想を伝え話し合う双方向的な交流の場を目指した。様々な学習で同様なグループ活動を行ってきたので、互いに考えを聞き合う態度が見られた。その中で、自分の考えを見直し付け足しをした(青ペンでかき込み有り)子は5名だった。伝え合いの様子から、自分の考えを見直す子、自分の考えを最後までかき表したいという思いをもった子、友達の考えを聞いていろいろな考え方に気付く子などの姿が見られた。



▲ 自分の考えをもつ時間を保障する必要がある

自分の考えを最後までかき表したい、もっと他の求め方を考えたいと思っている姿が見られたことから、できる限り「考えをもち・かき表す」段階の活動時間を保障するとよいと思った。そのためには、本時では、導入から課題提示までの「つかむ」段階(3分)を短縮することができたと考える。

▲ 伝え合いタイムをより有効に

グループでの伝え合いは、クラスの「伝え合いタイム」のスキルを活用した。様々な学習活動の中で、一人が輪番で司会を務める。司会、話し手、聞き手意識が徐々に育ってきたが、まだ相手が理解したかどうか確かめずに説明を続けたり、見直しが必要な部分を見逃して聞いたりする姿が見られた。自分の考えを確かにできるような伝え合いになるように、今後も意図的に場を設定していきたい。

3 その他



◎ 全体的話し合いで考えが広がった

全体的話し合いの場では、子どもたちのさまざまなやり方を提示した。子どもたちは提示されたやり方を理解しようと努めた。その中の一つのやり方を前に出て説明してもらった。教師は、話し手の説明に合わせて、図形を動かした。図を指し示しながら行った順序立った説明は、子どもたちの理解と確認を促したと考える。また、どんな図形に帰着させたのかを確認したことにより、やり方が類型化され、次時に公式を導く一助となった。

終末の学習の振り返りでは、いろいろな面積の求め方が分かったことや、話し合ったことよさに関する記述を見ることができた。

- いろいろなやり方があることが分かってよかった・・・10人
- 切ったり分けたりして、三角形や長方形にすると平行四辺形の面積が求められることが分かった・・・10人
- 友達の考えが分かってよかった。友達の考えでもやってみたい・・・3人
- 平行四辺形でも、直角三角形のときのように増やして考えられることが分かった・・・1人
- 同じやり方でも説明の仕方が違うので、友達の説明を聞くことができてよかった・・・1人
- 説明を聞いて、対角線で分けると合同な三角形ができることに気が付いた・・・1人

# 伝え合いタイム

めあて  
グループの全員が自分の考えをしっかりとるようしよう!

- 方法
- 自分の考えを分かりやすく説明する。
  - 聞き手は理解する。
  - 聞き手は質問やよい点を伝える。
  - 自分の考えを見直す。

## 「伝え合いタイム」の進め方

司会	説明する人	聞き手
これから「一人ずつ」について一人ずつ説明してください。		
〇〇さん、お願いします。	①自分の考えを分かりやすく説明する。 ・ワークシートを聞き手に向けて、順番を立てて説明する。 ・途中で、「ここまでいいですか。」と確認する。	①相手の考えのよい点や質問を伝えながら聞く。 ・うなずきながら聞く。
	②質問に答える。 ③自分の考えを見直す。	②よい点を伝えたり、質問をしたりする。 ・理解できないうえに聞き手は質問を要する。
〇〇さんの考えがよく分かりましたね。次は、〇〇さん、お願いします。	(くりかえし)	
これで、伝え合いを終わります。		

\*説明と見直しが出来たら、他の考えはないか時間いっぱい話し合ひましょう。

## 平行四辺形の面積の求め方を考えよう

(表) ヒント1



三角形や直角三角形、長方形の面積だったら求められるね。



平行四辺形を、三角形や直角三角形、長方形に分けたり、形を変えたりして考えよう。

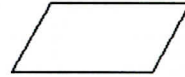
(裏) ヒント2

あなたは、下のどの方法で考えますか。

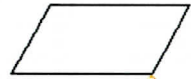
### 面積を求められる形にしてみよう。



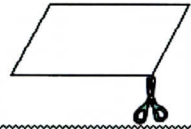
対角線を引いて考えよう。



線を引いて、面積を求められる形に分けて考えよう。



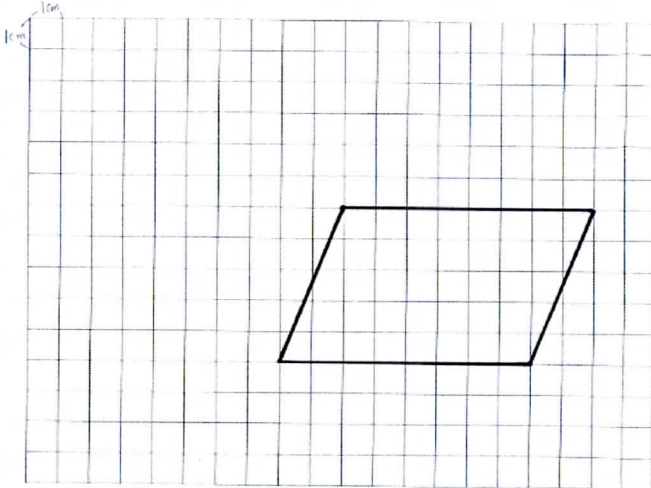
切って、動かして、形を変えて考えよう。



## 平行四辺形の面積の求め方を考えよう

NO. \_\_\_\_\_ (名前 \_\_\_\_\_)

【図】



【説明】(言葉や式)

【答え】

分かったことや話してよかったこと